

開学の祖 五代友厚小伝

高遠な志・進取の精神・利他の心

八木孝昌



大阪市立大学同窓会

目次

岡本直之 大阪市立大学同窓会 会長 ごあいさつ	1
児玉隆夫 大阪市立大学同窓会 五代友厚記念事業委員長 発刊によせて	
第1話 五代才助世界地図模写譚の真実	2
第2話 英君島津斉彬公と長崎海軍伝習所	4
第3話 長崎遊学と薩英戦争	6
第4話 潜伏生活と藩への上申書	8
第5話 薩摩藩英国留学と五代のビジョン	10
第6話 五代の苦境と富国の使命棚上げ	12
第7話 堺事件—— 国を背負った奮闘	14
第8話 大阪外国掛の仕事	16
第9話 戯作「惣難獣」と官職辞任	18
第10話 金銀分析所と改訂版薩摩辞書刊行	20
第11話 小松帯刀の死と政局の動き	22
第12話 鉱山業「弘成館」の展開	24
第13話 大阪商法会議所・大阪製銅会社など	26
第14話 大阪商業講習所	28
第15話 開拓使官有物払下げ事件(1)	30
第16話 開拓使官有物払下げ事件(2)	32
第17話 開拓使官有物払下げ事件(3)	34
第18話 五代の業績	36
五代友厚 年譜	38
筆者紹介	40

表紙:大阪市立大学キャンパス内 五代友厚銅像(撮影筆者)



ごあいさつ

大阪市立大学同窓会
会長 岡本直之

本学は、明治13年(1880)に五代友厚氏らにより設立された大阪商業講習所を淵源としています。同窓会では、開学の祖五代友厚氏を顕彰するため、銅像の建立、氏の志を継ぐグローバル人材育成を目的とした寄附講座「国際ビジネス演習」の開講、さらには海外インターンシップ派遣事業等に取り組んできました。

また、五代友厚伝刊行事業にも取り組み、本学出身の八木孝昌氏(経昭41年卒)に「史実に基づいて正しく、かつ分かりやすい記述」で『新・五代友厚伝 近代日本の道筋を開いた富国の使徒』(P 638)を執筆いただき、令和2年(2020)8月に発刊いたしました。

この本のダイジェスト版として、本年2月、八木孝昌著『開学の祖 五代友厚小伝 高遠な志・進取の精神・利他の心』(本文P 40)を刊行しました。18話からなり、読みやすく監修されていますので、ぜひご一読ください。皆さんが日本史で学ばれた「北海道開拓使官有物払い下げ事件」(第15～17話)の誤伝も修正していますので、本書を通じて「国益と公益のために生涯を捧げた」真実の五代友厚像を学んで下さい。

氏は、幼いころから世界を感じる環境に育ち、長崎海軍伝習所に入所、薩英戦争の折には捕虜となり、上海や英国にも渡っています。そして、その過程で国内外の多くの人々と出会っていますが、これらの経験と出会いが、いくつもの難局を乗り越える原動力となり、自らが進むべき道を選ぶもととなりました。

皆さんもこれから幾多の障害に行き当たるとと思います。日々の勉強はもちろん、いろいろなことを体験し、様々な人と会うことで視野を広げ、困難に立ち向かう力を養っていただきたいと思います。本書が一助になれば幸いです。

この春、新たなステージに立つ皆様の、ますますのご活躍とご健勝を祈念申しあげ、発行にあたっての挨拶といたします。



発刊によせて

大阪市立大学同窓会
五代友厚記念事業委員会
委員長 児玉隆夫

本同窓会が昨年8月、本学卒業生八木孝昌著の『新・五代友厚伝』を世に問うたのは、五代友厚の正しい姿を多くの方々に知っていただき、またそれを後世に伝えたいからでした。過去の五代伝のいずれもが五代を正しく伝えているとは言えず、特に「北海道開拓使官有物払い下げ事件」では、五代への否定的評価が支配的でした。高等学校日本史教科書でも例外なくこの「事件」を取りあげ、今日では「五代政商説」が通説となっています。一例を挙げれば「開拓長官黒田清隆は設置以来1400万円を投じた事業を39万円の無利息30年年賦で同じ薩摩出身の五代友厚らに払い下げようとし、藩閥と政商の結託と批判された」という具合です。

八木氏は著作に当たって可能な限りの資料を収集する中で、一点だけ「五代無実」を唱えた論考を見出します。それは住友資料館前副館長の末岡照啓氏の論文『「開拓使官有物払い下げ事件」再考』で、国立公文書館所蔵の官有物払い下げ決定に関する政府文書等を引いて、五代が無実であることを明らかにしたものでした。『新・五代友厚伝』はそれをもとに、五代伝記としては初めて開拓使官有物払い下げ事件における五代の「無実」を論証しました。八木氏はこのほかにも従来の五代伝や関連文献に見られる多くの誤伝を正しています。

開学の祖五代友厚に着せられた汚名をすすぐのは、同窓会の長年の願いでした。それがようやくここに実現しました。

この小伝はすべての市大生に五代について正しく知ってもらうことを願って作成されました。これを読んで、もっと詳しく知りたいと思われた方には、是非、『新・五代友厚伝』を読んであげたいと思います。

